シン 山びこ
https://school.e-tokushima.or.jp/es_fukui/
150th
阿南市立福井小学校
学校だより１月号-03
R6.1.17　　№64
文：校長　吉積　清

震災の記憶を風化させない

1995年の阪神淡路大震災から30年，2011年の東日本大震災から14年となりました。30年前の1月17日，午前5時46分，阪神淡路大震災が発生しました。阿南で暮らす私も，早朝の激しい揺れに飛び起きたこと，そして，時間とともに知らされる未曾有の大災害に驚いたこと，被災地にいた大学時代の友人となかなか連絡が取れず心配したこと(1カ月後に電話が通じ，無事だったことに安堵しました)，さらには復興へとルミナリエなどのイベントが行われたこと，防災教育が始まったことなどを思い出します。

また，東日本大震災が発生した日は，本校で勤務していました。突然の大地震に続いての津波警報，15時過ぎ授業を切り上げて児童を一斉下校させ，管理職以外の職員も17時には帰宅しました。ニュースで流れる被災地の様子と，いつ津波が来るかわからない不安感で眠れないまま朝を迎えました。翌日，登校すると，担任していた5年生児童から家に津波の被害があったこと，夜中までWaンダーランドに避難していたこと，家族が帰ってくるまで子どもだけで不安だったことなどを聞きました。そして，福井町には昭和南海地震の大きな被害を受けた歴史があることも知りました。

翌年(2012年)も５年生担任となりました。早く家に帰すことだけが，学校のすることではないとの反省もあり，総合的な学習の時間で『ふるさとで学ぶ防災　ー命の守れる人になるー』に取り組みました。児童と私の東日本大震災での経験を出発点に，次々と出てくる疑問の解決に，地域の方に昭和南海地震での津波体験の聞き取りに出かけました。まずは，湊地区へ(↗写真)。ここで聞いた「何も持たずに，とにかく逃げろ」から「本当に，自分一人だけ逃げていいのか」との新たな疑問も生まれ，後戸地区へも聞き取りに行きました(→写真)。住吉神社に残る伝承碑から，津波の大きさを実感するとともに，「物の代わりはあっても，命の代わりはないんぞ」「めいめいに確実に逃げろ，そうすれば全員助かる」と教えていただきました。避難の大切さが当時のゴールでした。

現在，避難訓練での避難力向上はもちろん，５年生の防災学習では，防災バッグの準備，家具転倒防止の在り方，災害時情報の得方，避難所での過ごし方など，発災を想定し，自他の命を守る力を育むものになっています。(→写真)ご家庭でもお話し合っていただければ幸いです。

※ インフルエンザ等，感染症の拡大防止に換気を一層徹底します。児童には，衣類での調整も指導します。また，体調不良時にはマスク着用にご理解ご協力願います。